

令和4年度
第1回 台東区区政サポーター
アンケート調査 報告書

「地域福祉について」

「食品ロスの削減について」

台東区 総務部 広報課

令和4年度 第1回 台東区区政サポーターアンケート

区政サポーターとは

- 資格：公募による区内在住の中学生以上の方
- 活動内容：区政に関するアンケートを郵便または電子メールで回答する。
- 任期：2年（令和3年4月1日～令和5年3月31日）

目的

区政サポーターの方に区の課題となっている「施策や事業に関するアンケート」に回答していただくことによって、区政への参加を図ります。また、アンケート結果は区民の貴重なご意見として、今後の区政運営の資料といたします。

内容

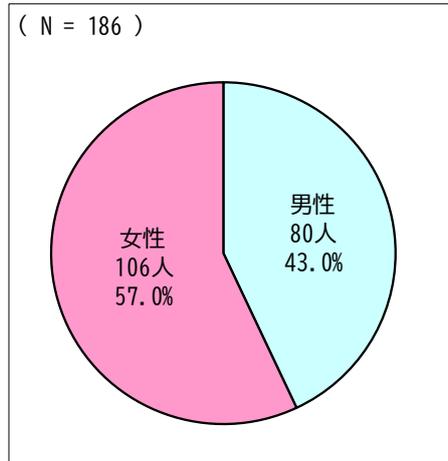
- (1) 地域福祉について
- (2) 食品ロスの削減について

調査概要

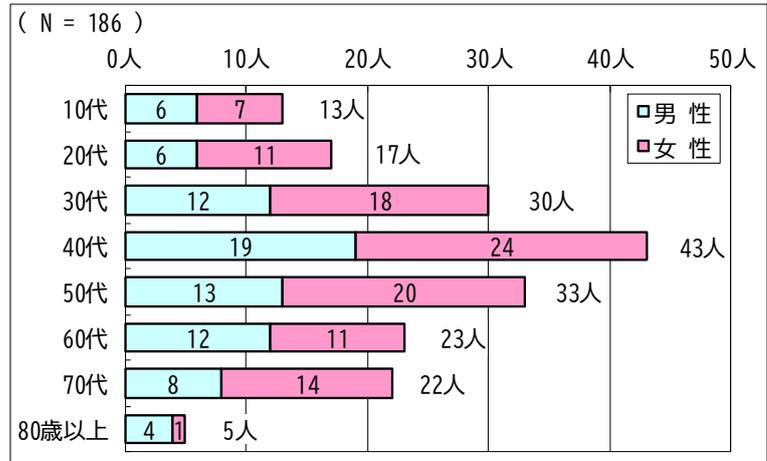
- 調査期間 令和4年4月27日（水）～5月10日（火）
- 対象 区政サポーター200名（郵便によるサポーター62名、Eメールサポーター138名）
- 有効回収数 186名（郵便57名、Eメール129名） 有効回収率93.0%

回答者の属性

性別



年代別



地区別（区民事務所・分室・地区センター）

地区	竹町	東上野	上野	入谷	金杉	谷中
男性	3人	3人	3人	9人	15人	5人
女性	6人	7人	9人	11人	12人	5人
計	9人	10人	12人	20人	27人	10人
地区	浅草橋	浅草寿	雷門	馬道	清川	合計
男性	6人	13人	11人	7人	5人	80人
女性	9人	11人	8人	16人	12人	106人
計	15人	24人	19人	23人	17人	186人

職業別

職業	自営業・ 個人事業主等	会社員・ 公務員等	主婦(夫)	学生	無職	その他	合計
人数	18人	87人	31人	19人	19人	12人	186人

目 次

I 調査結果の分析

「地域福祉について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

「食品ロスの削減について」・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

II アンケート質問と回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

報告書の表記について

- (1) 回答の構成比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがあります。
- (2) 基数となるべき実数は、Nで表しています。
Nは、回答者総数または該当設問の該当者数です。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合があります。
- (4) 自由意見は、文字制限がある為、要約して掲載する場合があります。

※この報告書は、区のホームページ <https://www.city.taito.lg.jp/>に掲載しています。
(トップページ>区民の声>台東区区政サポーター)

I 調査結果の分析

【地域福祉について】

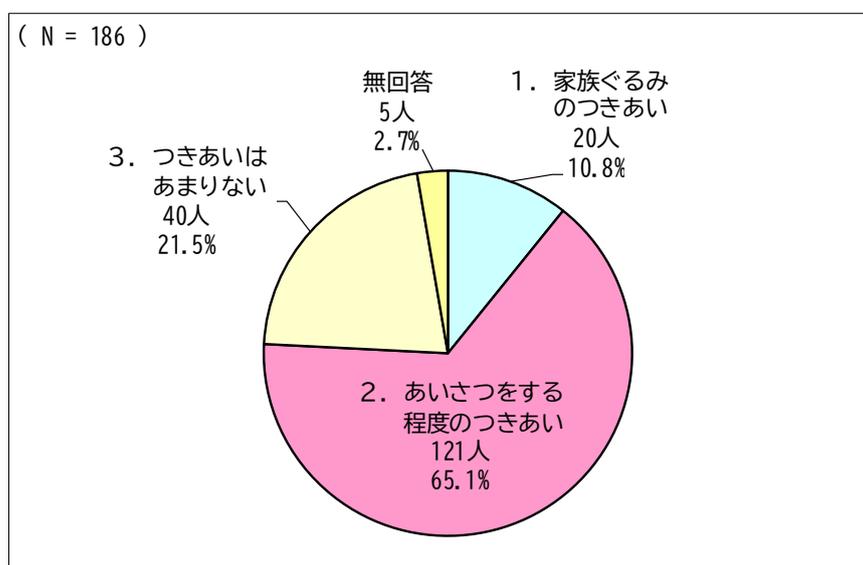
今回の調査では、暮らしていくうえで、近所での助け合い・関わり合いについて「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答した方が約9割となりました。

また、約8割の方が「近所での助け合いとして、したいことやできることがある」と回答しており、助け合いに大きな関心が寄せられていることがわかりました。

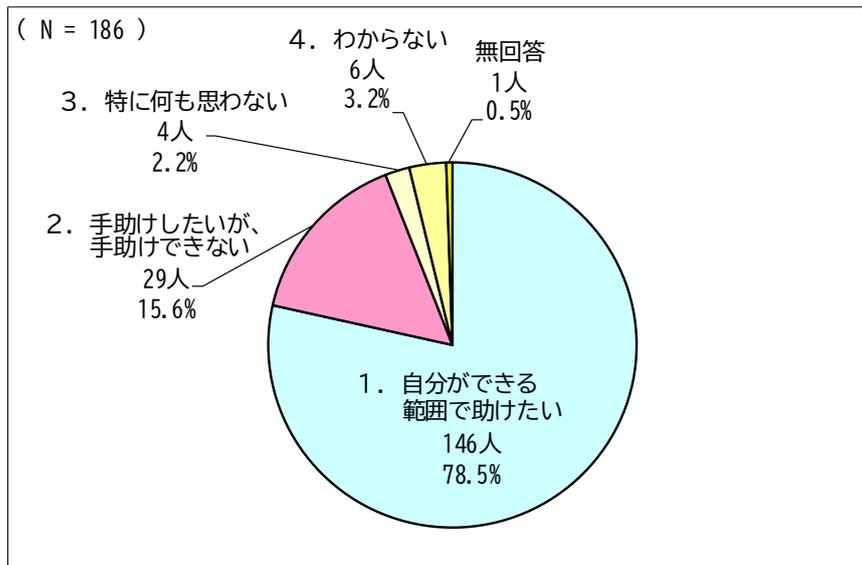
今回の調査結果を参考に、令和4年度に策定する地域福祉計画に反映するなど、福祉施策を推進してまいります。

(福祉部 福祉課)

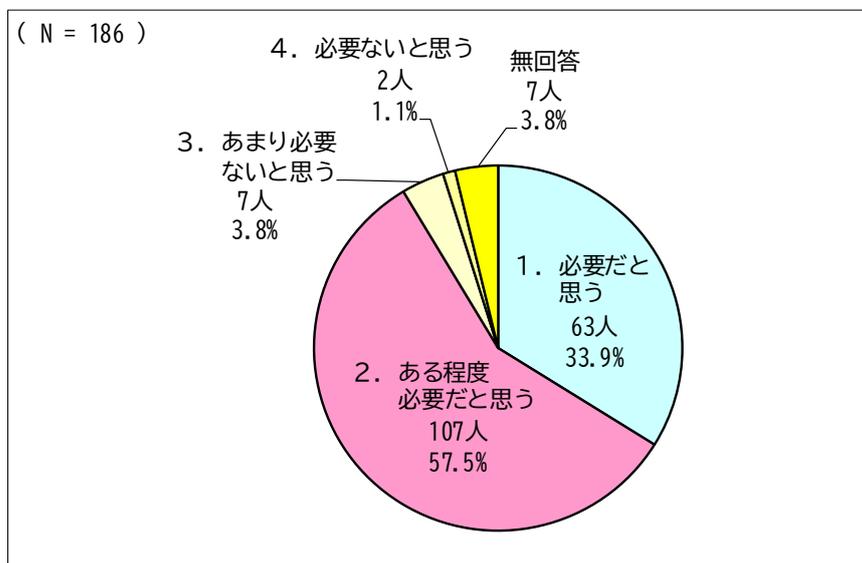
設問1：あなたは、近所の人とどのようなつきあいが多いですか。



設問2：近所で困っている人を見かけたとき、あなたはどのような気持ちになりますか。

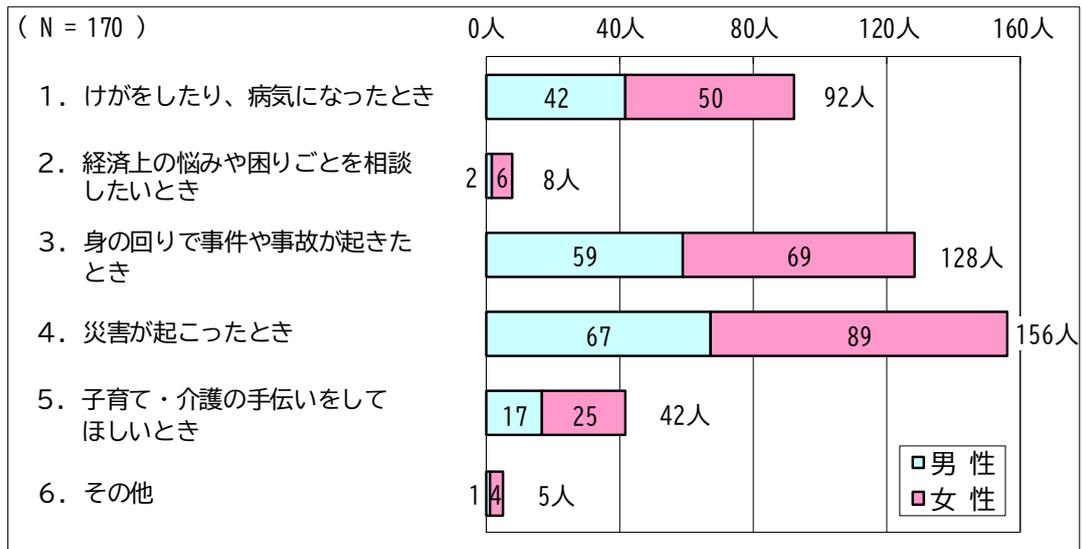


設問3：あなたは、暮らしていくうえで、近所での助け合い・関わり合いは必要だと思いますか。

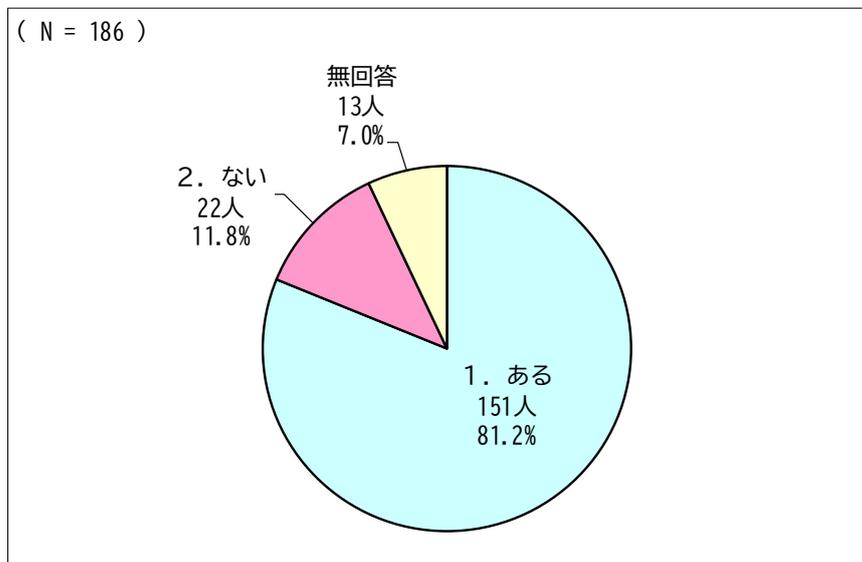


設問4：設問3で選択肢1、2を選択した方にお伺いします。

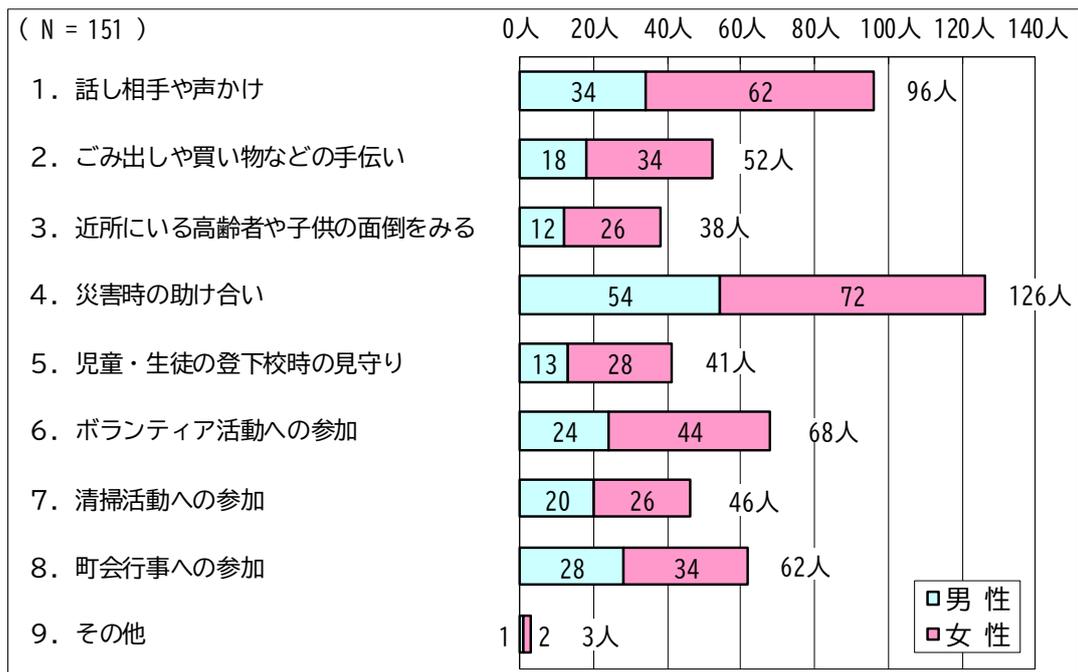
どのような時に近所での助け合い・関わり合いが必要だと思いますか。(複数回答可)



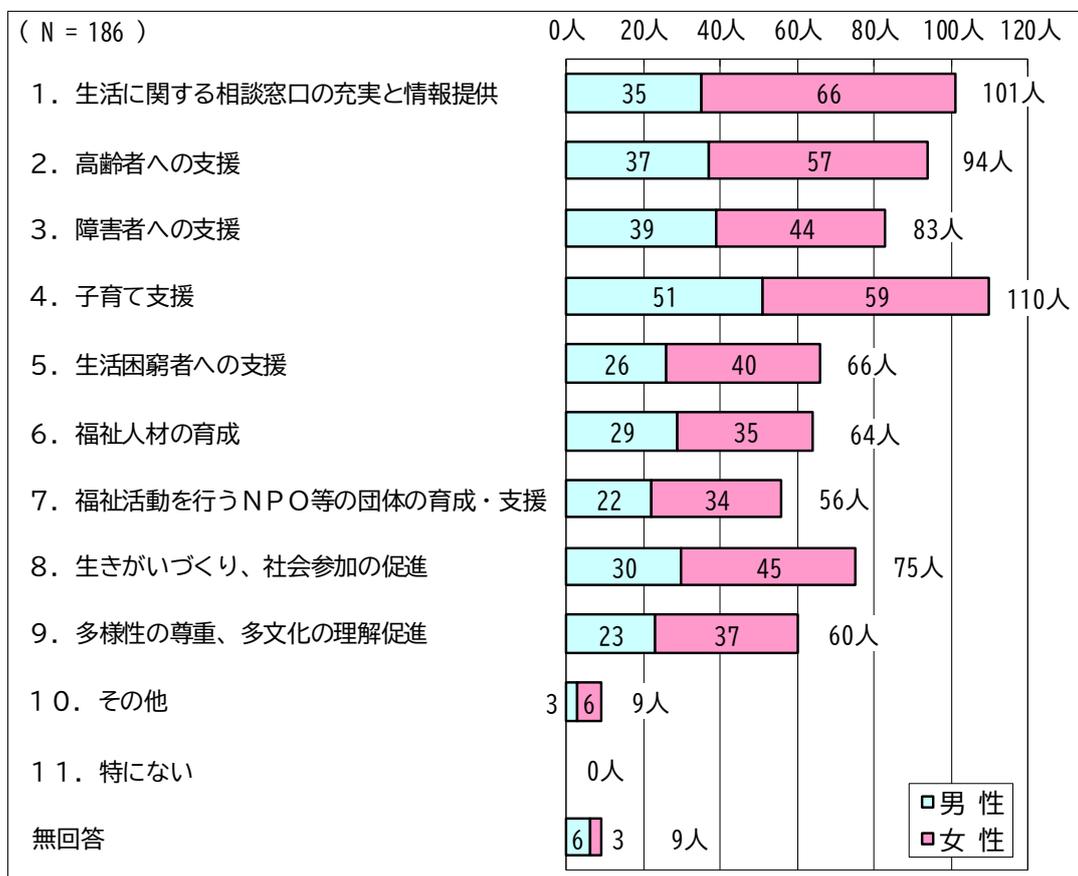
設問5：近所での助け合いとして、あなたがしたいことやできることはありますか。



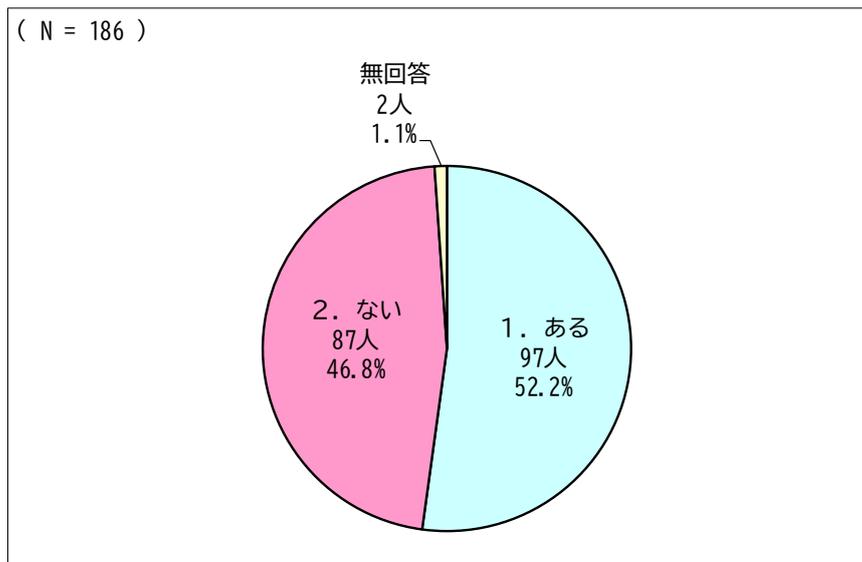
設問6：設問5で選択肢1「ある」と回答した方にお伺いします。
 どのようなことをしたい（できる）と思いますか。（複数回答可）



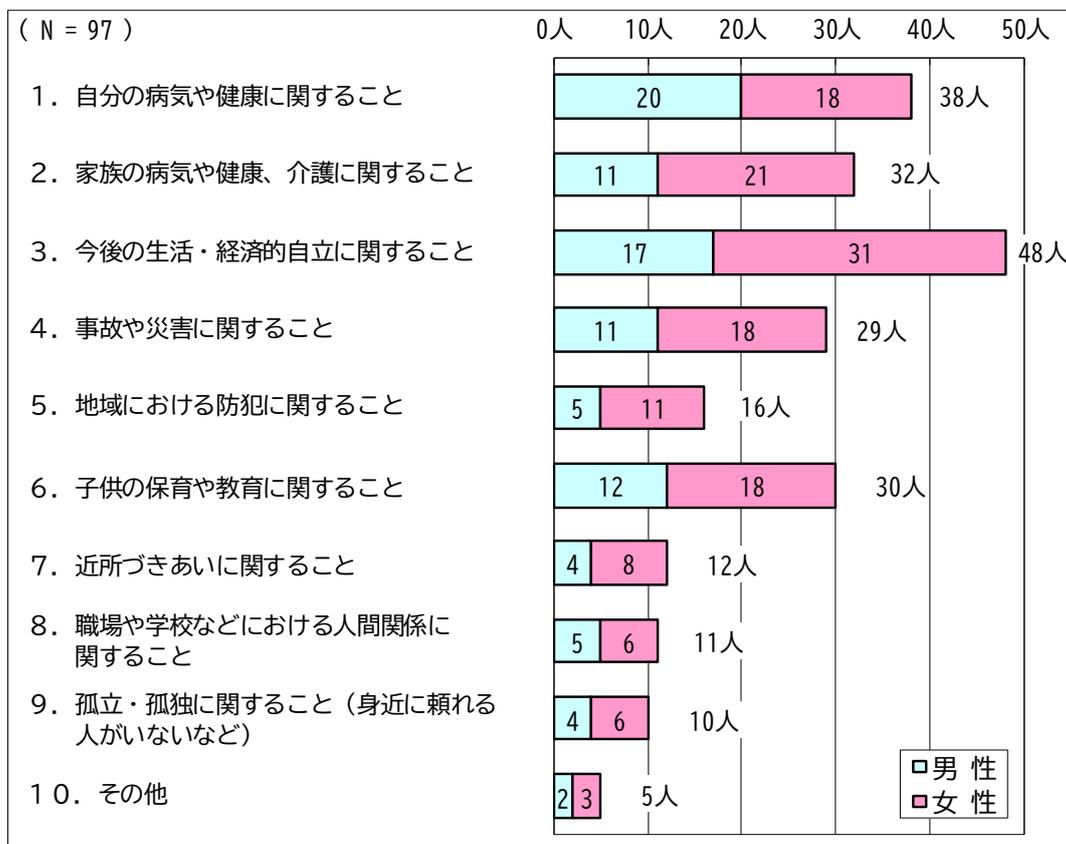
設問7：安心して暮らせる台東区をつくるためには、区はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。（複数回答可）



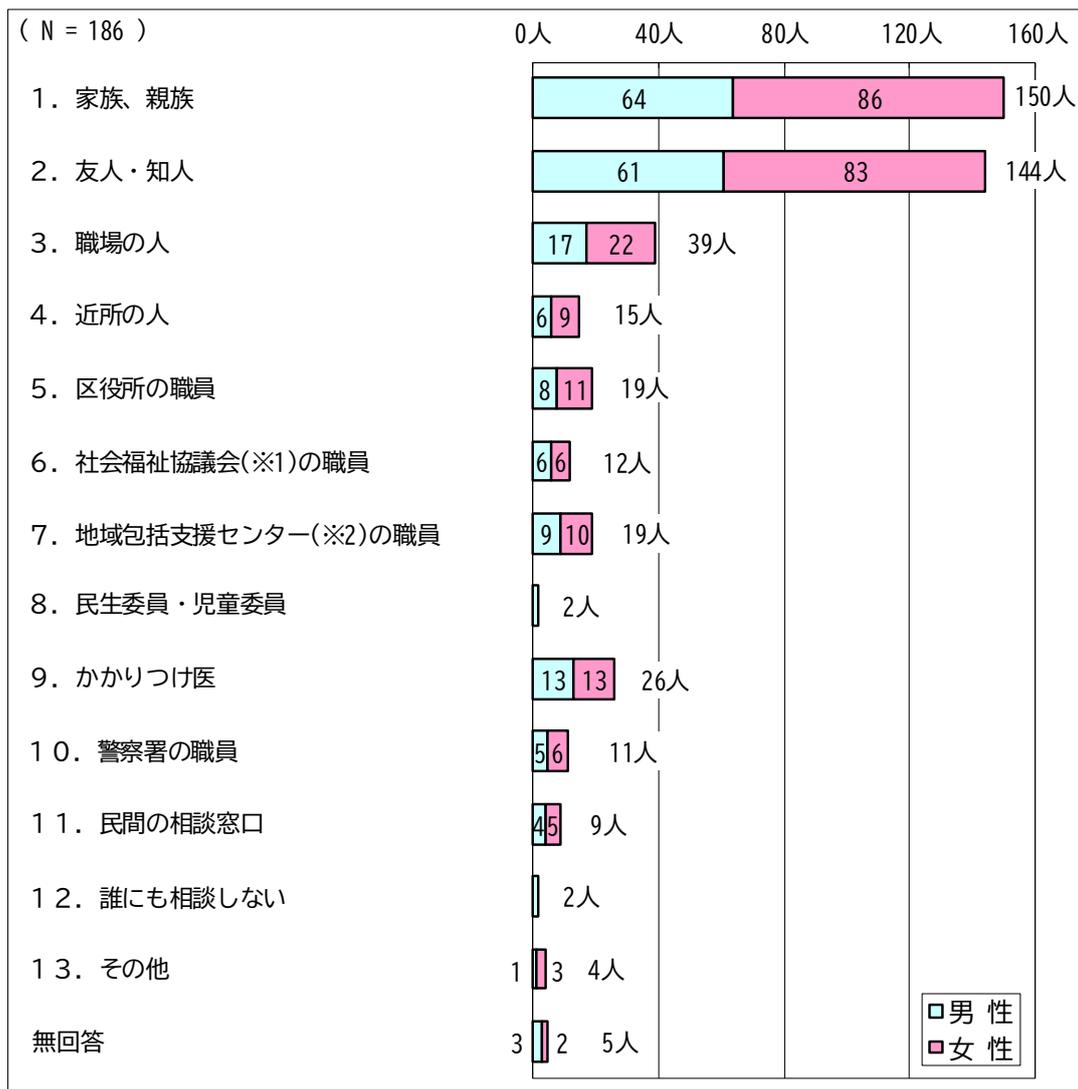
設問8：現在、あなたは、悩みや困りごとがありますか。



設問9：設問8で選択肢1「ある」と回答した方にお伺いします。
どのような悩みや困りごとですか。(複数回答可)



設問10：あなたは、悩みや困りごとがあったとき、誰に相談しますか。（複数回答可）



(※1) 高齢者・障害者・子育て家庭への支援、住民が主体的に行っている福祉活動の援助、ボランティア活動の普及など、地域福祉の推進を行う民間団体（ボランティア・地域活動の応援、高齢者や障害者に対する家事援助、成年後見制度に関する相談など）

(※2) 地域にお住まいの高齢者の方々やそのご家族をはじめ、地域住民の介護や福祉について様々な相談に応じる区が設置する機関（高齢者の日常生活の支援や介護に関するさまざまな相談、権利擁護、虐待の早期発見・防止等）

設問11：地域福祉について、ご意見等がありましたらご記入ください。

(主なご意見)

- ・ 町会の役員等でなくとも、町会活動や地域のボランティア活動に気軽に参加したいと思っているが、そのような情報が入ってこない。企画し、マネージメントする組織・人々が必要だ。町会や公的助成を受けるNPOなどに期待したい。
- ・ 近所の人個人の個人的な困りごとに個人として直接関わるのではなく、NPO団体などのボランティアスタッフの一人として、近所の人を含む地域の困っている人の手助けをしたい。子供の居場所支援、中学生の学習支援をできる場があれば参加したい。
- ・ 高齢社会の今、生きがいづくりは、住まいの近くで実施できる場所がほしい。これまでいくつかに参加したことがあるが、遠かった。せめて小学校区に質の良い活動の場があると幸せに思う。
- ・ 他の地域に比べて良い意味でのご近所付き合いがまだある地域だと思う。若い人も自然に受け入れられる土壌があるが、苦手な人もいるかもしれない。
- ・ 若くて元気なうちは、地域福祉の知識もなくピンとこないが、高齢者になって困る状況になってからでは遅いので、元気なうちから関わることがあればいいと思う。
- ・ 誰もがいずれ福祉の恩恵を受ける時がくる可能性があるため、今からみんなの関心を高める施策はないか。
- ・ 困り事でどこへ相談したら良いか、窓口がたくさんあり迷ってしまう。まずは電話連絡をしてから機関に出向いたり、来てもらったりと流れを分かりやすく表示したりPRしてほしい。
- ・ 福祉サービスを充実させると共にサービスの存在を広く知らせる広報活動を行うこと、この両方を同時に進める必要があると考える。
- ・ ボランティアや地域活動への参加に興味がある。区として発信を分かりやすくしてくれると嬉しい。
- ・ 地域に住む参加したい人が参加できるようなイベントなど、何かきっかけなどがあれば嬉しい。福祉について、地域の人を助けたり、助けてもらったりすることができるようなイベントや関わりのきっかけがあるなら、回覧板など目に留まるような方法でアナウンスしてほしい。

- ・コロナで他人との関わりが少なくなり、町会行事等もなくなってしまい、全く閉ざされた町になってしまったと思う。
- ・コロナでお祭りなどの地域行事も自粛が続いていたが、実際に開催されると活気や人々のつながりが生まれると実感した。
- ・福祉という言葉を使う場合、多くが高齢者や障害を持つ方々へのサービスやそれを提供する仕組みを指すが、社会的弱者を対象としたサービスであるという大前提に立てば、子供自体にかかる福祉が少なすぎると感じる。
- ・自身は経済的にも肉体的にも問題を抱えていないものの、人生の目標を失った高齢者は多いと思う。そうした健康な老人が要支援者や要介護者、または障害者のお世話ができるようなシステムづくりをしてほしい。
- ・ボランティア活動を始めたいと思っている人がいると思うので、そのような人を対象にした講習会が、あれば良いと思う。
- ・災害時のことを考えると、日頃から一人暮らし世帯や外国人世帯への地域参加のアプローチが必要だと考える。現状、地域参加の機会がないと感じている。
- ・福祉にも適切な距離感が大事だと思っている。どこに相談すればいいか、何が相談できるかを知りたい。ただ、人に何も言えない人もいるので、そういう人を見つけてあげられるような仕組みも必要だと思っている。
- ・気軽に話を出来る相手がほしい。
- ・地域福祉に少し関わるようになり、情報を得られるようになったが、関わっていないと情報を得にくいのももう少し発信してほしい。
- ・地域福祉は区民同士の自助のみではなく、公的な支援があることが前提と考える。
- ・声をあげることのできない方の意見をいかに聞き出せるか、そして、その意見を地域福祉施策として立案と実行する専門スタッフの育成と部門の確立が必要ではないか。

【食品ロスの削減について】

台東区では、令和3年3月に「台東区食品ロス削減推進計画」を策定し、食品ロス削減の取り組みを実践している区民の割合100%を目指しています。

今回の調査では、食品ロス削減のための取り組みを実践している方の割合が平成30年度の調査時の8割台から上昇し、9割を超え、食品ロスに対する意識が高まっていることがうかがえました。

また、「フードドライブ」や「てまえどり」の取り組みについては、さらに認知度を上げ、実践につながるような周知が必要です。

今後、区が取り組むべきことと自由意見では、スーパーや飲食店での啓発や、子供たちの学ぶ機会や教材の提供、フードドライブの利用など、様々なご意見をいただきました。

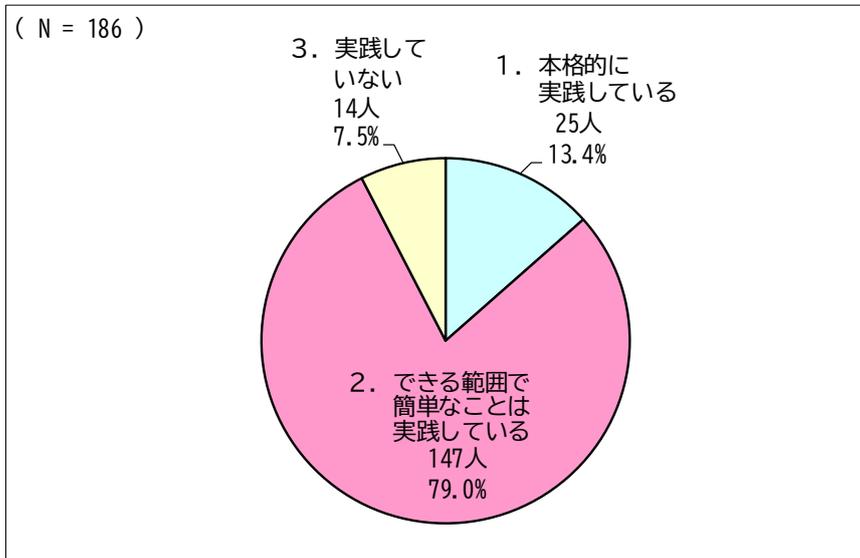
今回の調査結果や、いただいたご意見等を参考にし、さらなる食品ロス削減のため、周知、啓発活動を行ってまいります。

(環境清掃部 清掃リサイクル課)

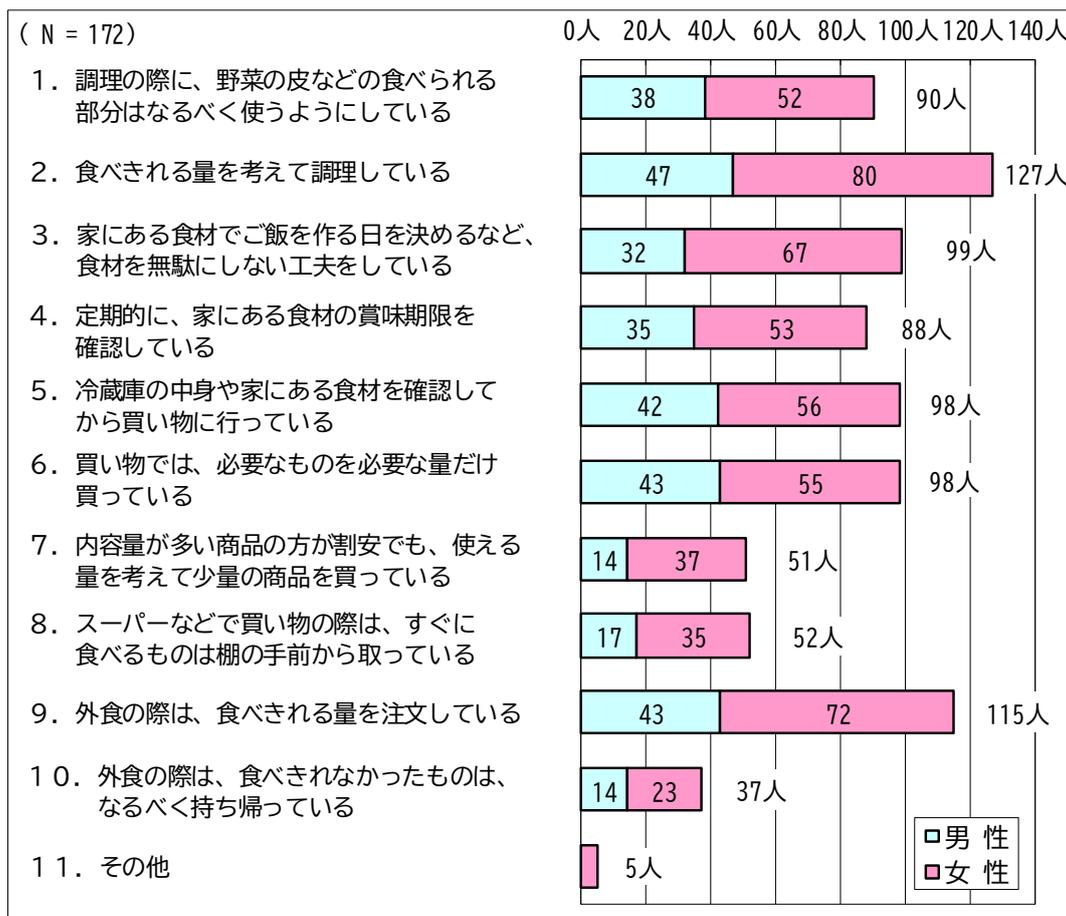
設問12:「食品ロス」とは、「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品」のことです。

日本では、年間570万トンもの食品ロスが発生しており、その約半分は家庭からの排出と推定されています。

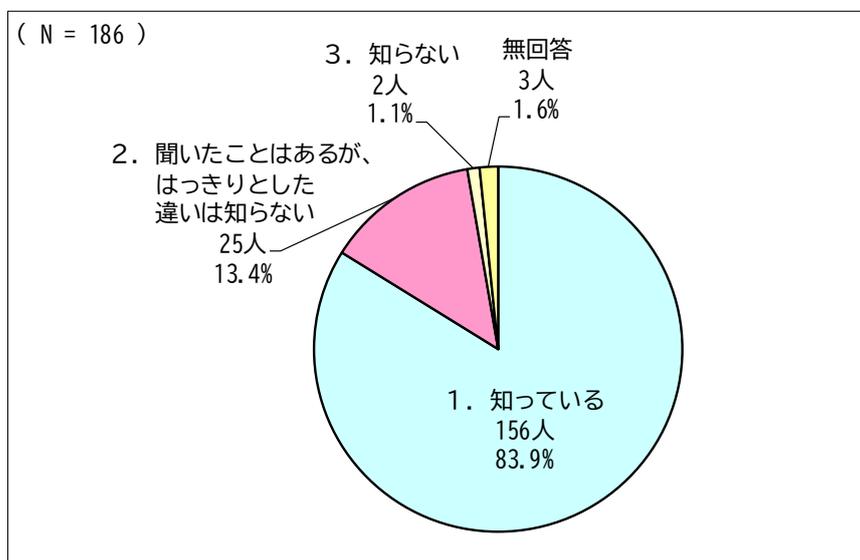
あなたは食品ロス削減のための取り組みをしていますか。



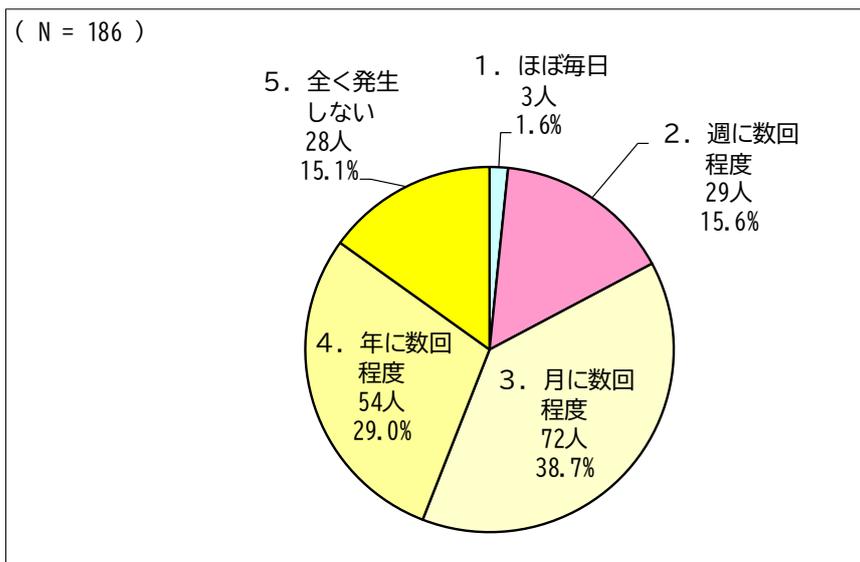
設問13：設問12で選択肢1、2を選択した方にお伺いします。
食品ロス削減のために、どのようなことを実践していますか。(複数回答可)



設問14：「消費期限」と「賞味期限」は、違います。
「消費期限」とは、未開封で、表示されている方法で保存した場合に「食べても安全な期限」です。品質の劣化が早い食品に表示されています。
「賞味期限」とは、未開封で、表示されている方法で保存した場合に「おいしく食べられる期限」です。期限が過ぎても、すぐに食べられないわけではありません。
あなたは「消費期限」と「賞味期限」の違いを知っていますか。

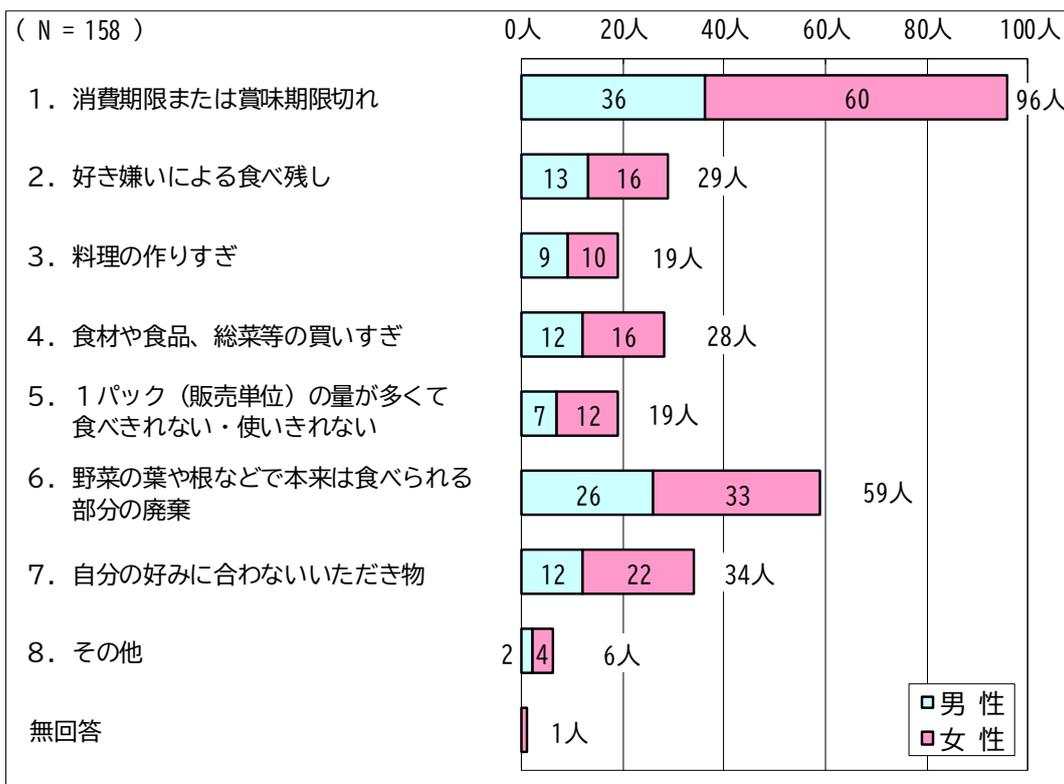


設問15：あなたのご家庭では、どのくらいの頻度で食品ロスが発生していますか。



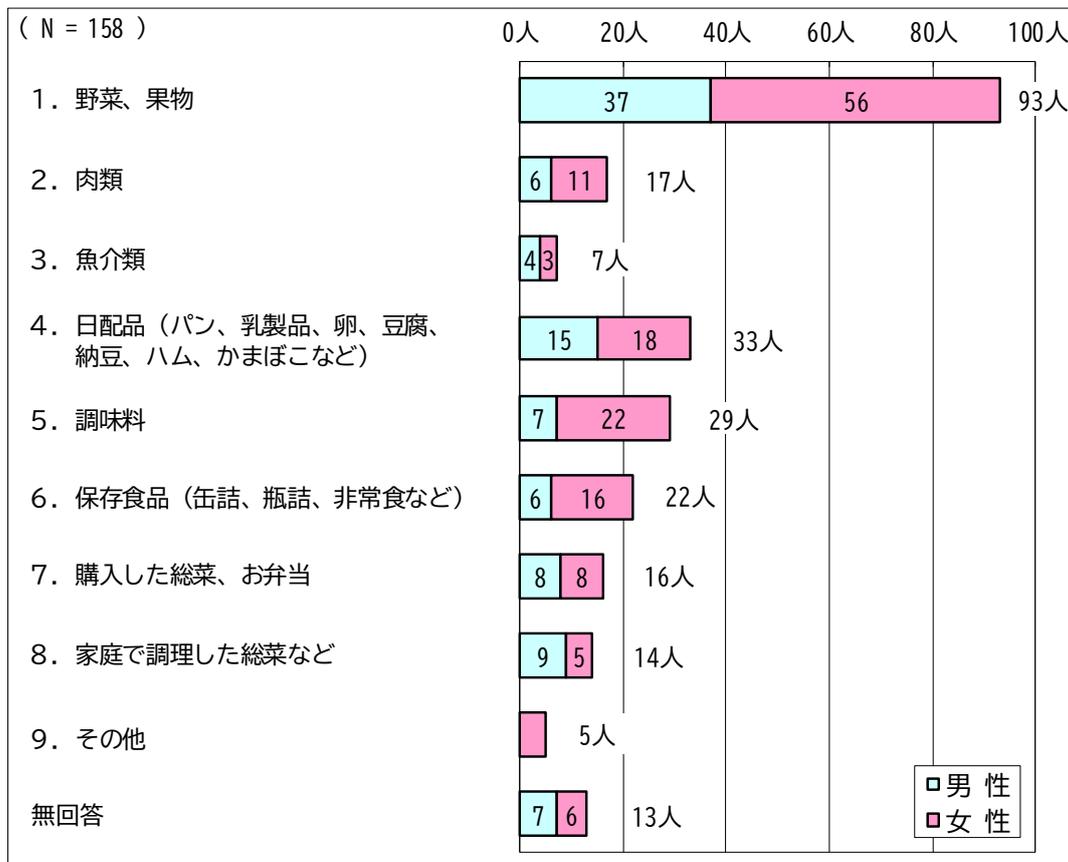
設問16：設問15で選択肢1～4を選択した方にお伺いします。

あなたのご家庭では、どのような理由で食品ロスが発生しますか。(複数回答可)



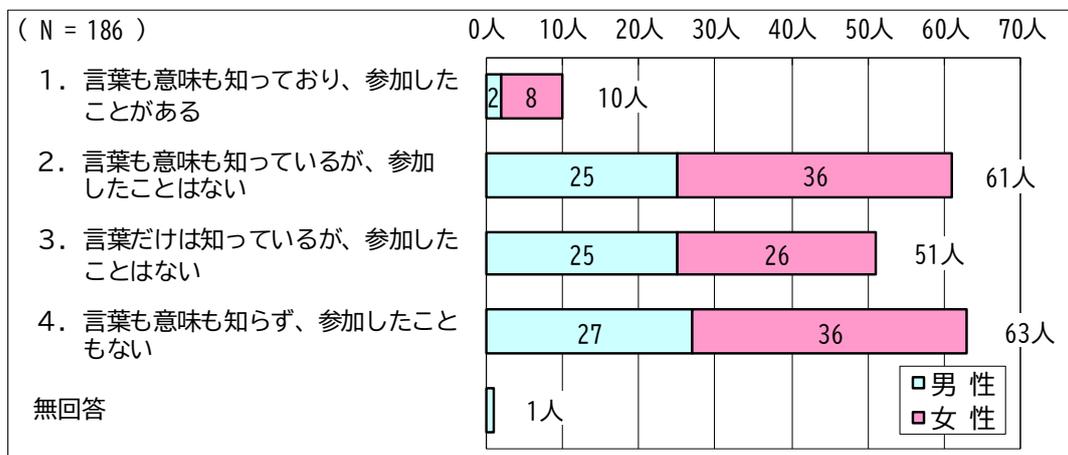
設問17：設問15で選択肢1～4を選択した方にお伺いします。

あなたのご家庭で、処分（廃棄）することが多い食品はどのような種類ですか。
（複数回答可）

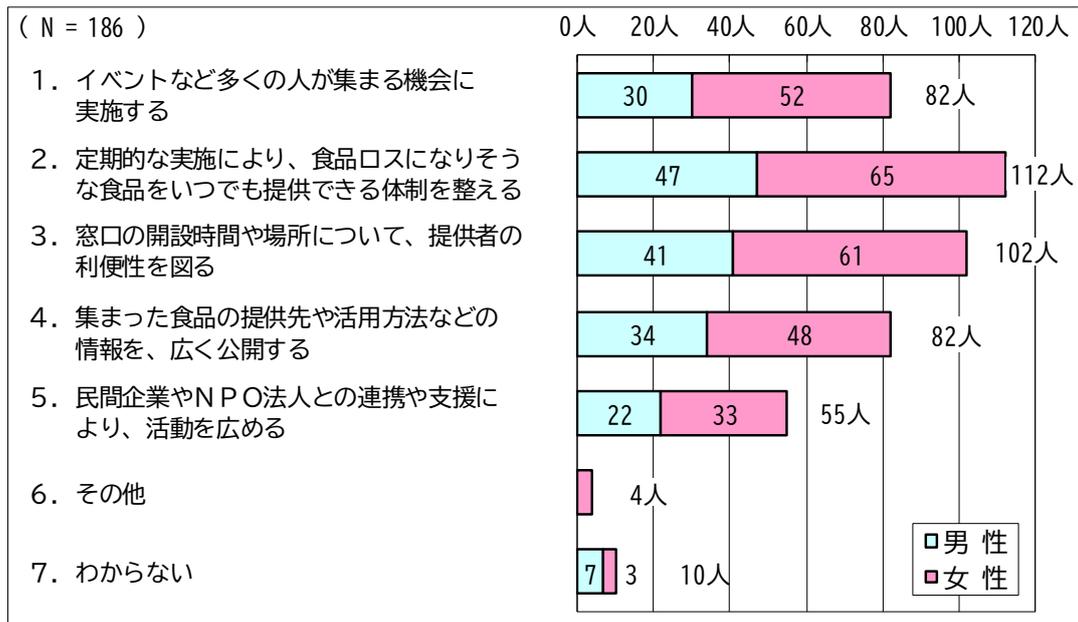


設問18：「フードドライブ」とは、各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめてフードバンク（※1）団体や、地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動を言います。あなたはフードドライブについて知っていますか。また、参加したことがありますか。

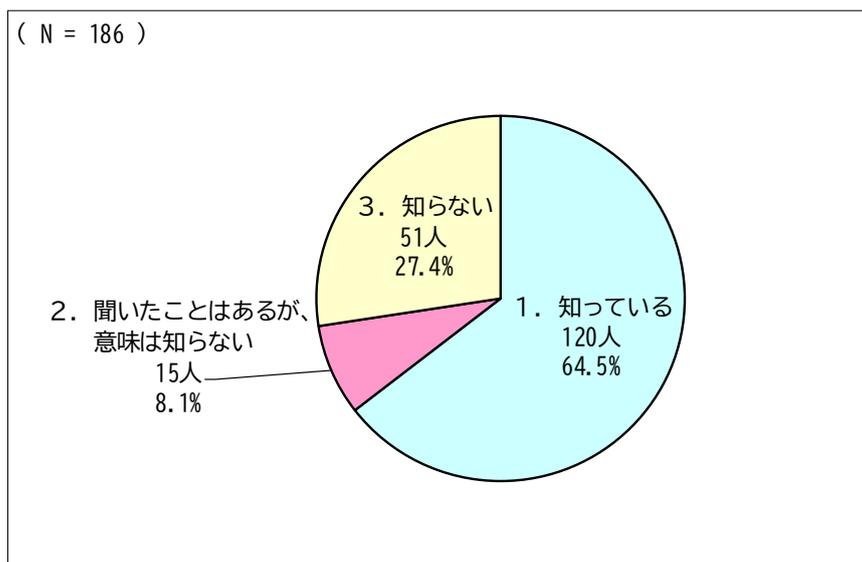
（※1）「フードバンク」とは、各家庭や食品を取り扱う企業から、まだ安全に食べられるのに廃棄されてしまう食品を引き取り、福祉施設等へ無償で提供する団体・活動



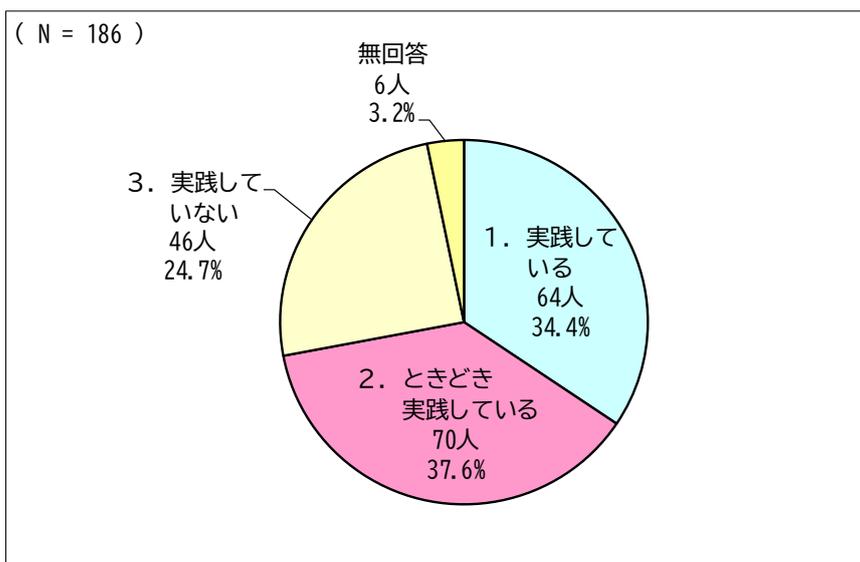
設問19：フードドライブの活動を活発にするためには、何が重要だと考えますか。
(複数回答可)



設問20：食品ロスの約半分は飲食店や食品小売店などの事業所から出ていると推定されています。消費（賞味）期限切れによる食品廃棄など、事業所からの食品ロスを削減するため、スーパーやコンビニエンスストアなどでは、すぐに食べる食品は商品棚の手前から取ることを促す「てまえどり」という啓発を行っています。この啓発事業を知っていますか。

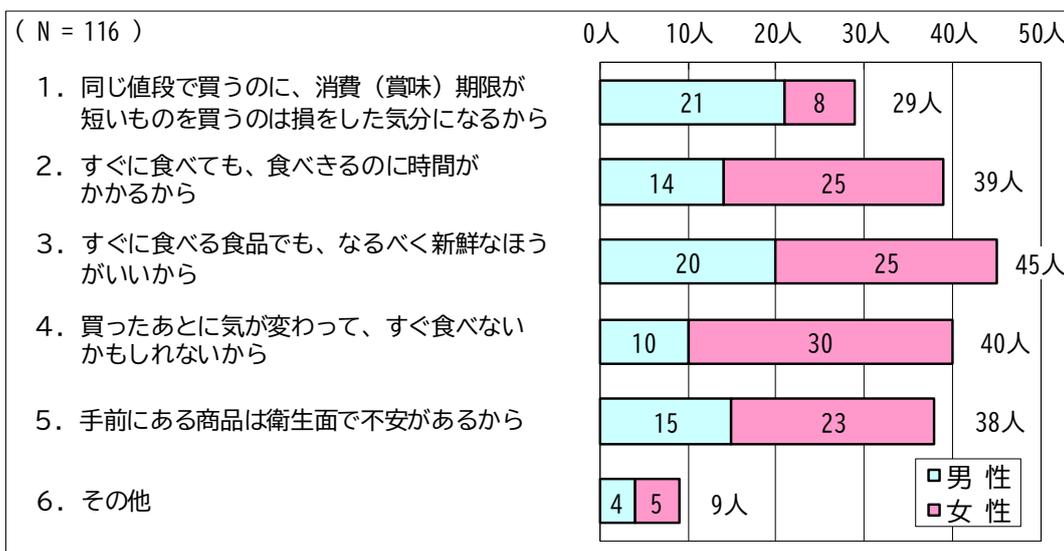


設問21：あなたは「てまえどり」を実践していますか。

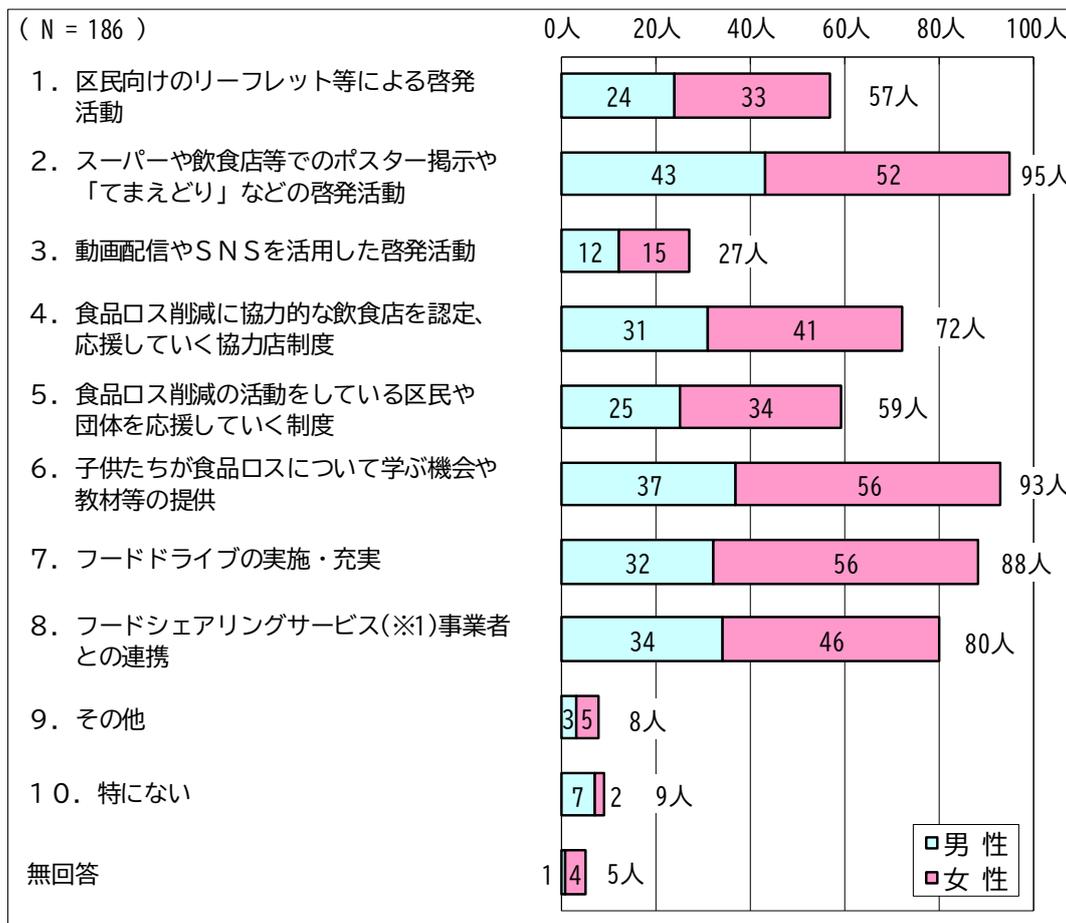


設問22：設問21で選択肢2、3を選択した方にお伺いします。

「てまえどり」を実践しない理由は何ですか。(複数回答可)



設問23：食品ロス削減のため、今後、区はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。
 (複数回答可)



(※1) 飲食店等の廃棄直前の食品と消費者を、主にスマホのアプリでマッチングするサービスのこと。お店側は食品廃棄が減り、消費者側は通常より安い料金で飲食やテイクアウトができる。

設問24：食品ロス削減についてのアイデアや区の施策に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。

(主なご意見)

- ・台東区が食品ロス対策をしている印象があまりなかったため、今後は区の重要政策としてアピールして、台東区モデルを確立して行ってほしい。
- ・町会毎にフードバンクを設置したらどうか。そこで、区で使えるポイントを貰えるなど、インセンティブがあるとモチベーションになると思う。
- ・簡単なコンポストの作り方などを親子で体験できる教室を開催してはどうか。
- ・似たようなことを考える国内だけで考えるのではなく、海外事例から学ぶというのも方法だと思う。
- ・実際どれくらいの量が廃棄されているのかが想像できないため、まずはそれを知れる機会をつくってほしい。
- ・食品ロスを出さない調理法、対処法などを広報で少しずつ掲載したり、色々なイベントなどで情報を発信することで認知度が広がると良いと思う。
- ・野菜の根や葉、肉の脂身など一般的に捨てられてしまう部位の活用（料理）方法をスーパーやSNSで情報提供する。区で業者から規格外野菜などを提供してもらい、ファーマーズマーケットを開催する。
- ・未開封期限内以外も活用方法があると良い。未開封、期限内と限定されるとわざわざ手間をかけてまで家の外に出すメリットが感じにくい。開封済み、期限切れの物を家庭内でアレンジする方法が知れると良い。
- ・多く買ったときは保存食を作り、後日、夕食時のもう一品として重宝している。ちょっとした料理のレシピの紹介があると無駄なく作ってもらえるのではないだろうか。
- ・子供達に教育して、理念を理解した行動がとれるようになれば良いと思う。
- ・子供の頃からの教育が大事だと思う。また、常にフードドライブできる場所の周知が必要だと思う。

- ・食品ロス削減の取り組みについて、今まであまり具体的に考えたことがない。どういう取り組みがあるかや、フードドライブ、フードシェアリングについてもっと宣伝するところから始めるのが良いと思う。
- ・フードドライブという言葉を知った。どのように受け渡しをすれば良いのか、広報たいとう等で案内をしてほしい。
- ・フードドライブの食品回収を学校や幼稚園、保育園で実施してほしい。
- ・近所にフードドライブの巡回があれば、スーパーに行く前に覗いてみたい。また、ポイントが貯められる、使えるといったサービスがあれば良いと思う。
- ・廃棄前の食べ物は、働く世代がパッと買えるように駅近の場所やアクセスの良いところでいろんな事業者のものをまとめて販売する場所を作ってほしい。
- ・スーパーなどで必要な分だけ買える方法があると良いと思う。極端な話だが、キャベツ1枚から購入可能で残った分だけでも欲しい人はいると思う。
- ・マーケットに行く事が多いので、広告に「てまえどり」の事を大きく書いてもらうと良いと思う。
- ・量り売り、セルフでそうざい等、ビニール袋や自宅持参の入れ物に必要な量だけ入れて買えるシステムはパックやトレイ等のゴミの削減にもなる。
- ・食品等はなるべく期限切れに差がないように並べ、たくさん並べない。少人数用に小分けコーナーなど設ける。
- ・生産者が必要量を考え、無駄な量を作らないことが必要だと思う。
- ・過剰に製造することをまず止める。売り切れを非難する風潮を改善してほしい。フードロスを出さない飲食店を応援してほしいし、私も応援したいので、そのお店を区民に教えてほしい。
- ・食品ロスの削減対応をしている企業の啓蒙活動を行うのはどうか。

II アンケート質問と回答

【地域福祉について】

設問1: あなたは、近所の人とどのようなつきあいが多いですか。

1. 家族ぐるみのつきあい	20人	10.8%
2. あいさつをする程度のつきあい	121人	65.1%
3. つきあいはあまりない	40人	21.5%
無回答	5人	2.7%
全体	186人	100.0%

設問2: 近所で困っている人を見かけたとき、あなたはどのような気持ちになりますか。

1. 自分ができる範囲で助けたい	146人	78.5%
2. 手助けしたいが、手助けできない	29人	15.6%
3. 特に何も思わない	4人	2.2%
4. わからない	6人	3.2%
無回答	1人	0.5%
全体	186人	100.0%

設問3: あなたは、暮らしていくうえで、近所での助け合い・関わり合いは必要だと思いますか。

1. 必要だと思う	63人	33.9%
2. ある程度必要だと思う	107人	57.5%
3. あまり必要ないと思う	7人	3.8%
4. 必要ないと思う	2人	1.1%
無回答	7人	3.8%
全体	186人	100.0%

設問4: 設問3で選択肢1、2を選択した方にお伺いします。どのような時に近所での助け合い・関わり合いが必要だと思いますか。（複数回答可）

1. けがをしたり、病気になったとき	92人	54.1%
2. 経済上の悩みや困りごとを相談したいとき	8人	4.7%
3. 身の回りで事件や事故が起きたとき	128人	75.3%
4. 災害が起こったとき	156人	91.8%
5. 子育て・介護の手伝いをしてほしいとき	42人	24.7%
6. その他	5人	2.9%
全体	431人	

設問5: 近所での助け合いとして、あなたがしたいことやできることはありますか。

1. ある	151人	81.2%
2. ない	22人	11.8%
無回答	13人	7.0%
全体	186人	100.0%

設問6: 設問5で選択肢1「ある」と回答した方にお伺いします。
 どのようなことをしたい(できる)と思いますか。(複数回答可)

1. 話し相手や声かけ	96人	63.6%
2. ごみ出しや買い物などの手伝い	52人	34.4%
3. 近所にいる高齢者や子供の面倒をみる	38人	25.2%
4. 災害時の助け合い	126人	83.4%
5. 児童・生徒の登下校時の見守り	41人	27.2%
6. ボランティア活動への参加	68人	45.0%
7. 清掃活動への参加	46人	30.5%
8. 町会行事への参加	62人	41.1%
9. その他	3人	2.0%
全体	532人	

設問7: 安心して暮らせる台東区をつくるためには、区はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。(複数回答可)

1. 生活に関する相談窓口の充実と情報提供	101人	54.3%
2. 高齢者への支援	94人	50.5%
3. 障害者への支援	83人	44.6%
4. 子育て支援	110人	59.1%
5. 生活困窮者への支援	66人	35.5%
6. 福祉人材の育成	64人	34.4%
7. 福祉活動を行うNPO等の団体の育成・支援	56人	30.1%
8. 生きがいづくり、社会参加の促進	75人	40.3%
9. 多様性の尊重、多文化の理解促進	60人	32.3%
10. その他	9人	4.8%
11. 特にない	0人	0.0%
無回答	9人	4.8%
全体	727人	

設問8: 現在、あなたは、悩みや困りごとがありますか。

1. ある	97人	52.2%
2. ない	87人	46.8%
3. 無回答	2人	1.1%
全体	186人	100.0%

設問9: 設問8で選択肢1「ある」と回答した方にお伺いします。
どのような悩みや困りごとですか。(複数回答可)

1. 自分の病気や健康に関すること	38人	39.2%
2. 家族の病気や健康、介護に関すること	32人	33.0%
3. 今後の生活・経済的自立に関すること	48人	49.5%
4. 事故や災害に関すること	29人	29.9%
5. 地域における防犯に関すること	16人	16.5%
6. 子供の保育や教育に関すること	30人	30.9%
7. 近所づきあいに関すること	12人	12.4%
8. 職場や学校などにおける人間関係に関すること	11人	11.3%
9. 孤立・孤独に関すること(身近に頼れる人がいないなど)	10人	10.3%
10. その他	5人	5.2%
全体	231人	

設問10: あなたは、悩みや困りごとがあったとき、誰に相談しますか。(複数回答可)

1. 家族、親族	150人	80.6%
2. 友人・知人	144人	77.4%
3. 職場の人	39人	21.0%
4. 近所の人	15人	8.1%
5. 区役所の職員	19人	10.2%
6. 社会福祉協議会の職員	12人	6.5%
7. 地域包括支援センターの職員	19人	10.2%
8. 民生委員・児童委員	2人	1.1%
9. かかりつけ医	26人	14.0%
10. 警察署の職員	11人	5.9%
11. 民間の相談窓口	9人	4.8%
12. 誰にも相談しない	2人	1.1%
13. その他	4人	2.2%
無回答	5人	2.7%
全体	457人	

設問11: 地域福祉について、ご意見等がありましたらご記入ください。

【食品ロスの削減について】

設問12: 「食品ロス」とは、「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品」のことです。日本では、年間570万トンもの食品ロスが発生しており、その約半分は家庭からの排出と推定されています。
あなたは食品ロス削減のための取り組みをしていますか。

1. 本格的に実践している	25人	13.4%
2. できる範囲で簡単なことは実践している	147人	79.0%
3. 実践していない	14人	7.5%
全体	186人	100.0%

設問13: 設問12で選択肢1、2を選択した方にお伺いします。
食品ロス削減のために、どのようなことを実践していますか。（複数回答可）

1. 調理の際に、野菜の皮などの食べられる部分はなるべく使うようにしている	90人	52.3%
2. 食べきれる量を考えて調理している	127人	73.8%
3. 家にある食材でご飯を作る日を決めるなど、食材を無駄にしない工夫をしている	99人	57.6%
4. 定期的に、家にある食材の賞味期限を確認している	88人	51.2%
5. 冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行っている	98人	57.0%
6. 買い物では、必要なものを必要な量だけ買っている	98人	57.0%
7. 内容量が多い商品の方が割安でも、使える量を考えて少量の商品を買っている	51人	29.7%
8. スーパーなどで買い物の際は、すぐに食べるものは棚の手前から取っている	52人	30.2%
9. 外食の際は、食べきれる量を注文している	115人	66.9%
10. 外食の際は、食べきれなかったものは、なるべく持ち帰っている	37人	21.5%
11. その他	5人	2.9%
全体	860人	

設問14: 「消費期限」と「賞味期限」は、違います。
「消費期限」とは、未開封で、表示されている方法で保存した場合に「食べても安全な期限」です。品質の劣化が早い食品に表示されています。
「賞味期限」とは、未開封で、表示されている方法で保存した場合に「おいしく食べられる期限」です。期限が過ぎても、すぐに食べられないわけではありません。
あなたは「消費期限」と「賞味期限」の違いを知っていますか。

1. 知っている	156人	83.9%
2. 聞いたことはあるが、はっきりとした違いは知らない	25人	13.4%
3. 知らない	2人	1.1%
無回答	3人	1.6%
全体	186人	100.0%

設問15: あなたのご家庭では、どのくらいの頻度で食品ロスが発生していますか。

1. ほぼ毎日	3人	1.6%
2. 週に数回程度	29人	15.6%
3. 月に数回程度	72人	38.7%
4. 年に数回程度	54人	29.0%
5. 全く発生しない	28人	15.1%
全体	186人	100.0%

設問16: 設問15で選択肢1～4を選択した方にお伺いします。
あなたのご家庭では、どのような理由で食品ロスが発生しますか。（複数回答可）

1. 消費期限または賞味期限切れ	96人	60.8%
2. 好き嫌いによる食べ残し	29人	18.4%
3. 料理の作りすぎ	19人	12.0%
4. 食材や食品、総菜等の買いすぎ	28人	17.7%
5. 1パック（販売単位）の量が多くて食べきれない・使いきれない	19人	12.0%
6. 野菜の葉や根などで本来は食べられる部分の廃棄	59人	37.3%
7. 自分の好みに合わないいただき物	34人	21.5%
8. その他	6人	3.8%
無回答	1人	0.6%
全体	291人	

設問17: 設問15で選択肢1～4を選択した方にお伺いします。
あなたのご家庭で、処分（廃棄）することが多い食品はどのような種類ですか。
（複数回答可）

1. 野菜、果物	93人	58.9%
2. 肉類	17人	10.8%
3. 魚介類	7人	4.4%
4. 日配品（パン、乳製品、卵、豆腐、納豆、ハム、かまぼこなど）	33人	20.9%
5. 調味料	29人	18.4%
6. 保存食品（缶詰、瓶詰、非常食など）	22人	13.9%
7. 購入した総菜、お弁当	16人	10.1%
8. 家庭で調理した総菜など	14人	8.9%
9. その他	5人	3.2%
無回答	13人	8.2%
全体	249人	

設問18: 「フードドライブ」とは、各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめてフードバンク団体や、地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動を言います。あなたはフードドライブについて知っていますか。また、参加したことがありますか。

1. 言葉も意味も知っており、参加したことがある	10人	5.4%
2. 言葉も意味も知っているが、参加したことはない	61人	32.8%
3. 言葉だけは知っているが、参加したことはない	51人	27.4%
4. 言葉も意味も知らず、参加したこともない	63人	33.9%
無回答	1人	0.5%
全体	186人	100.0%

設問19: フードドライブの活動を活発にするためには、何が重要だと考えますか。（複数回答可）

1. イベントなど多くの人が集まる機会に実施する	82人	44.1%
2. 定期的な実施により、食品ロスになりそうな食品をいつでも提供できる体制を整える	112人	60.2%
3. 窓口の開設時間や場所について、提供者の利便性を図る	102人	54.8%
4. 集まった食品の提供先や活用方法などの情報を、広く公開する	82人	44.1%
5. 民間企業やNPO法人との連携や支援により、活動を広める	55人	29.6%
6. その他	4人	2.2%
7. わからない	10人	5.4%
全体	447人	

設問20: 食品ロスの約半分は飲食店や食品小売店などの事業所から出ていると推定されています。消費（賞味）期限切れによる食品廃棄など、事業所からの食品ロスを削減するため、スーパーやコンビニエンスストアなどでは、すぐに食べる食品は商品棚の手前から取ることを促す「てまえどり」という啓発を行っています。この啓発事業を知っていますか。

1. 知っている	120人	64.5%
2. 聞いたことはあるが、意味は知らない	15人	8.1%
3. 知らない	51人	27.4%
全体	186人	100.0%

設問21: あなたは「てまえどり」を実践していますか。

1. 実践している	64人	34.4%
2. ときどき実践している	70人	37.6%
3. 実践していない	46人	24.7%
無回答	6人	3.2%
全体	186人	100.0%

設問22 設問21で選択肢2、3を選択した方にお伺いします。
「てまえどり」を実践しない理由は何ですか。（複数回答可）

1. 同じ値段で買うのに、消費（賞味）期限が短いものを買うのは損をした気分になるから	29人	25.0%
2. すぐに食べても、食べきるのに時間がかかるから	39人	33.6%
3. すぐに食べる食品でも、なるべく新鮮なほうがいいから	45人	38.8%
4. 買ったあとに気が変わって、すぐ食べないかもしれないから	40人	34.5%
5. 手前にある商品は衛生面で不安があるから	38人	32.8%
6. その他	9人	7.8%
全体	200人	

設問23: 食品ロス削減のため、今後、区はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。（複数回答可）

1. 区民向けのリーフレット等による啓発活動	57人	30.6%
2. スーパーや飲食店等でのポスター掲示や「てまえどり」などの啓発活動	95人	51.1%
3. 動画配信やSNSを活用した啓発活動	27人	14.5%
4. 食品ロス削減に協力的な飲食店を認定、応援していく協力店制度	72人	38.7%
5. 食品ロス削減の活動をしている区民や団体を応援していく制度	59人	31.7%
6. 子供たちが食品ロスについて学ぶ機会や教材等の提供	93人	50.0%
7. フードドライブの実施・充実	88人	47.3%
8. フードシェアリングサービス事業者との連携	80人	43.0%
9. その他	8人	4.3%
10. 特になし	9人	4.8%
無回答	5人	2.7%
全体	593人	

設問24: 食品ロス削減についてのアイデアや区の施策に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。

令和4年度 第1回
台東区区政サポーターアンケート調査報告書

編集・発行 令和4年6月
台東区総務部広報課
令和4年度登録第12号